

# わかくさ



子どもの移動には、四万十市福祉事務所のご厚意により市のマイクロバスを派遣して頂きました。



鮎のつかみ取り。夕食のバーベQで焼いて頂きました。



## 8.1~3(2) 若草園キャンプ

四万十町(旧大正)轟キャンプ場にて。2泊3日の予定でしたが初日の夜から雨になり、急いで帰園。その夜は管理棟でザコ寝。1泊2日の宿舎になりました。



朝食はホールで。



▶カメラマンも一緒に潜って「はい、ポーズ！」



## ごあいさつ



園長 福留久美

拝啓

めっきりと秋風を感じる季節となつてまいりました。皆様には日頃より若草園の子どもたちに、ご支援いただきまして厚く御礼申し上げます。

また、先日の台風12号により和歌山県、三重県周辺では甚大な被害があり、不測のご災難に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。おかげさまで当園周辺は被害はありませんでした。

1学期を無事に終えることができ、長い夏休みには、さまざまな楽しい体験ができ、一回り体も心も大きくなって、それぞれの成長を嬉しく感じているところです。

若草園恒例のサマーキャンプは残念ながら、天候に恵まれず、1日目だけとなりましたが、大正町の四万十川で泳ぎ、アユの掴みどり、野外でのバーベキューなど楽しみました。またフィリピンワークキャンプに2名が参加し、現地の高校生と交流し協力して小学校の壁塗り、屋根づくり、花壇づくり、ホームステイを行いました。豊かな日本での生活と違い、水の大切さ、物の大切さに気付かされ、現地の温かく、細かなもてなしに深く感銘を受け、来春 社会に旅立つ2人には大変、貴重な経験をさせていただきました(内面の記事をご覧ください)。また、南国市の巨峰園様にご招待いただき、各ホームごとで出かけ、巨大プールでめいっばい楽しんできました。その他に、小・中学校では、それぞれに加力学習、水泳の特練、水泳大会、消防体験学習、稲刈り体験、カヌー体験、音楽祭に向けての練習など夏にしか経験できないことをたくさん行えました。

さまざまな夏の体験を心身の成長の糧に、2学期の学習や運動会、体育祭、文化祭へと繋げてくれることと信ずるところです。

平成24年度、若草園創設55周年を迎えることとなり、小舎制養育への大きな転換を終え、生活体制が少しづつ落ち着いてきている今、55周年事業に取り組むことになりました。来年度、記念事業として、式典、記念誌発刊、研修などを予定しております。皆様には本誌にて、お知らせさせていただきますので、ご支援、ご協力を賜りますよう慎んでお願い申し上げます。

敬具



高知オレンジリボン  
キャンペーン11月3日  
⇒詳しくは裏面に

子どもに関するご相談は…  
児童家庭支援センター  
わかくさ  
Tel(0880)33-0258  
24時間365日無料

7.18 伊豆杯百人一首大会  
旧職員を偲んで行われている伝統的なカルタ会です。競技ルールに聞き入る子ども達。



8.7 一条太鼓パティ・コンサート  
入場料が震災の募金となりました。園から現在5人が加入しています。



竹島クラブミニバスケットボール試合  
夏の間に大方・宿毛・宇和島・徳島・岡山など多くの場所に行きました。  
8.3版こども高知新聞で活動が紹介されました。



7.23 下田子ども夏祭り  
恒例の園・保・小・中合同の行事。園の子ども達も浴衣に着替えて縁日気分を楽しみました。



8月、数回 巨峰園でレジャー  
プールの招待券が寄付されて、各ホームごとにグループ活動で泳ぎに行きました。ありがとうございました。



# こどもたちの活動



8.23 小学校の消防体験学習  
カッコいい消防隊員の服を着て社会勉強をしました。幼児も服を羽織らせてもらって「敬礼！」。

## 若草園の防災対策

7.9 消防署の協力による消火訓練  
若草園では毎月、避難訓練をしております。地震や火災を想定して、警報ベルや放送設備を使つての避難訓練で、中庭までみんなで避難します。この日は特別に四万十消防署から2名の隊員がやって来て講話があり、消火器の使い方を練習しました。オレンジ色のユニフォームが輝いていました。新しい園舎は普通のアパートのようですが、避難誘導灯や通報ボタン、消火器が設置されています。

## しようちゃんの体験手記

私はフィリピンワークキャンプに参加できた事にとっても誇りを持っています。また、支えてくれたスタッフの皆や、ワークキャンプを企画した主催者に感謝をしています。  
私は十日間のキャンプ通じてたくさん有益だったことがありました。一つは日本での生活で忘れていた感謝の気持ちや、日本では感じる事の出来ない感謝の気持ちを感じる事が出来た事です。日本では当たり前のような事が、フィリピンでは通用しません。特に違いがあったのは水です。カガヤンデ・オロでは生活用水はすべて雨水で補われていて、常に水には限りがありました。そういった環境の中で生活していると、自然に水の大切さや、日本では当たり前前に水が出る事に感謝の気持ちを持ちました。二つ目は、十日間のワークキャンプやホームステイを通じて、フィリピンメンバーと交流ができた友達になった事です。私は英語が苦手、最初の二日間は同室のフィリピンメンバー達とコミュニケーションが取れず、とても悔しかったのですが、バルアルテ小学校でのワークや、夜に皆で集まってお互いの言葉を教えあつたりする内に、すぐに打ち解ける事が出来ました。互いに違った国で育ち、違った文化の中で生活してきたのですが、その違いをお互いに理解できたから、すぐ仲良くなったのかなと思います。私達日本人メンバーの中には、文化の違いに少し戸惑っている人もいたけど、フィリピンメンバー達が早く安心させようと積極的に話しかけてくれたので、その優しさにとても感謝しました。  
私が今回のキャンプで感じた事は、カガヤンは日本では見かけない人や地域の温もりがあつたように感じました。フィリピンという国は日本と比べてみるとそれほど豊かな国ではなく、貧しい国です。しかし、経済的な貧しさがあつても、それを忘れるくらい心が豊かで温もりがありました。私は、今の日本には良心の欠片のない事件がとても多く感じます。そういったニュースの報道を見ていると心が嫌でも貧しくなると感じます。なので、今回のカガヤンでの滞在からフィリピンメンバー達の温かい心に触れ、心が満たされたように感じました。忘れていた何かを思い出したような気がしました。高校3年生の私はもうすぐ社会に出ます。社会に出る前にカガヤンでこのような貴重な体験が出来たことに感謝をしています。私は今回のワークキャンプで感じた事を一生忘れることはないと思

います。

## Philippines Workcamp

Cagayan de Oro  
Jul.24~Aug.3, 2011

Christian Child Welfare League of Japan



## 誌上討論会 グループ活動を考える

本誌編集員

夏休みも終わりがけの時、ちょうど事務室で、わかくさの担当者3人がグループ活動について色々話した。ほんまやったら、理事会の議事録とかは「標準語の常体」でちゃんとした感じの文章にまとめるがやけど、いつも園の感じが出るほうがえいるかと思つて、話したままの言葉でせる事にした。卒園生とかにも、わかくさ、送りようし、「何か、なつかしいらう？」お国言葉が聞けて(笑)。

③ グループ活動で高知イオンに映画見に行くがやけど、映画見る子と、見ん子がおつて……。Aホームも前に行ったがやけど、そうやつたつて言いよつた。  
④ グループ活動つてそれでエイガやろうかねえ(笑)。  
⑤ ほんまやつたら、みんなで何かをする？  
⑥ 大舎の時には全体で大きな行事をして、子どもの楽しみのためにやつたがやけど、大人数でやるけん何やつても「施設の行事」つて感じやつたけん、小舎になつて家族の行楽みたいに来るようになるようにグループ活動をするようになったがやろう？

⑦ 大舎の時にも男子グループ、女子グループ、幼児グループとかでグループ活動しよつた……。  
⑧ グループ活動つて、やっぱりみんなでするがやけん、映画見に行くがやつたら、みんなで映画見たらえいやん。  
⑨ けど、高校生も小学生も、ほかのホームやつたら幼児も居るし、なかなか子どもが見たい映画が無かつたりするし。  
⑩ けど、シネコンやけん、けっこういろんな映画やりようろう？ けっこう選べると思うがやけどな。

⑪ 見たいがあるがやけど、中村から行きよつたらやっぱり3時間とかかかるやん。見たいが合せて行くがやつたら早よう行かんといかんかつたり、遅うなつたりして、なかなかうまくいけんがよ。  
⑫ ま、映画館いくが遠いけんねえ。  
⑬ グループ活動費も一律やけん、  
(一すぐ左つづ)

(一右からのつづ)  
⑭ 高校生の入場料と小学生の入場料が違うけん、高校生らあ映画見たら、あとおやつとか買えんなつて、「それやつたら映画やめちよこつた」つてなるがよ。  
⑮ お小遣いのためにグループ活動費を出しようがやけん。活動の活動のために教養娯楽費を出しようがやけん。活動せんがやつたら返して貰わんと。  
⑯ まあ、活動代1000円とおやつ代500円みたいな感じでやりようけん、余つたら小遣い帳に入れて管理させるつていうがやけんがやけん。他のホームの活動でも余つたお金は子どもにやりよつたがやけん。

⑰ それやつたら教養娯楽費より本人支給金になるね。  
⑱ グループ活動をどうするか、ホームで考えてもらわんといかんね。やっぱり施設の予算でしよう事やけん目的をもつて取り組んで貰わんといかんねえ。  
⑲ ほんなら、イオンに買い物に行くつて言うがは、グループ活動じやいかんろうか？  
⑳ グループ活動つて、家族みんなで同じ経験をしてあとで「良かったね、おもしろかつたね、あれはしんどかつたね」つてするもんやろ。買い物だけつてあんまりグループ活動つて感じじやないかもね。

㉑ 具同ホームみたいに「柏島へ泳ぎに行くとか、夜釣りに磯へ行く」とかできたらえいがやけどねえ。  
㉒ けん、下田小の子らあも「日曜日にお父さんお母さんとイオンに行つてきた」とか、よう言いようし、近所の家族で行楽言うたら高知へ買い物に行くみたいながもあるし、園の子は普段はそんな事させちやれんがやけん「イオンに買い物に行く」つて言う事自体がグループ活動で、ホームの思い出にもなると思うがやつたら、それもアリかもしれけんね。  
㉓ そうやねえ。

ちなみに、この何日かあつて、㉓はホームでイオン・ショッピングモールへ行き、中学生のYちゃんと東宝シネマズで『カンフー・パンダ』を見て、あとで他の子とも合流してショッピング、ウインドウショッピングを楽しんだがやと。▼グループ活動については本誌15号「地域の活動と共に」でも触れています。お持ちの方は併せてお読み下さい。バックナンバーを「希望の方」送付しますので「一報下さい」。



# 高知オレンジリボンキャンペーン2011



県のイメージキャラクター「くろしおくん」版オレンジリボン

ことしも11月の児童虐待防止推進月間に合わせて、高知オレンジリボン運動が開催されます。オレンジリボンのシンボルマークに込められた意味合い「お話ししましょう。気持ちを分かち合いませんか」とのメッセージを発信すると共に、児童虐待防止の啓発活動として取り組んでいるものです。

広報活動としては、ポスターを公共施設に掲示させていただき、チラシを民生委員や、各学校を通じて各家庭に配布いたします。

イベントとしては下記の予定で開催します。ご参加の上、虐待防止の合い言葉「オレンジリボン」を地域に広める働きに加わって下されば幸いです。



龍馬くんのお見送りで高知駅を出発(昨年のパレード)



2011(H23).11.3 [木]

- ・ 14:00～ 高知駅 南口広場にてパレード (高知県警察音楽隊と共に)
- ・ 18:30～ 県民文化ホール (グリーン) にてう～みトーク&コンサート  
⇒う～み：北海道函館市出身高知県在住の歌う旅芸人

2011(H23).11.2 [水]～3[木]

- ・ 18:00～22:00 高知城ライトアップ  
⇒高知城がシンボルカラーのオレンジ色に輝きます

## ☆「児童虐待防止推進月間」の標語 ☆

(平成17年度より厚生労働省が公募)

- ’05 (H17) 気づいたら 支えて 知らせて 見守って
- ’06 (H18) あなたの「もしや」が子どもを救う。
- ’07 (H19) きこえるよ 耳をすませば 心のさけび
- ’08 (H20) 助けての 小さなサイン 受け止めて
- ’09 (H21) 守ろうよ 未来を見つめる 小さなひとみ
- ’10 (H22) 見すごすな 幼い子どもの SOS

▽英語の授業の時だったか。ボランティアの意味をはき違えている人が多いと聞いた。私も「タダ働き」と思っていた。「自主的に参加する事。志願者」。そして発音も違っていた。チアーにアクセントがあると言う。正しい発音を練習していると、ボランティアは本当に人を励ます(チア)働きになるのだなあと思いはじめた。▽園の後援会組織、若草園を支える会の会長と同行する事がある。山崎さんのアピールで心に残っている言葉がある。「1口千円でできるボランティアです」、「1人の老万円より、10人の1万円が尊いのです」(千円×10人の意味)。

▽「王将も歩のもの」と言う諺がある。多くの軍隊では歩兵は志願兵など大勢で固められている。アメリカ第18代大統領グラントはその歩兵志願兵部隊を指揮し、無条件降伏のグラントとの威名を取るほどに活躍し、文字通り王手をかけた人だった。9つある歩兵の使い方が将棋のツボとも聞く。敵地では正しく金の働きとなるのだ。▽前回号では感謝と共に昨年度の寄付者芳名録を掲載させていただいた。若草園も無数の志願兵に支えられて、子どもを守る強靱な軍隊になっている。今号記事にあるような充実した子どもの養育を提供できている。ボランティアって本当にすばらしい力のあるものだ、あらためて感じさせられた。▽それにしても栄光会の理事には年俸はなく、1回会議に出席して3千円のみ。高知から駆けつけても同額。支える会の寄付にと置いて帰る方もある。後援会長に至っては、あちらこちら駆け巡ってもボランティア活動。やはり、意味をはき違えてしまっただけの「情状酌量の余地」はあると思った。(せと)

編集後記



## 「児家セン」だより

児童家庭支援センターの事を省略して「児家セン」で呼んでいます。

今年度も、高知県下3カ所の児童家庭支援センターや関係機関とともに「高知オレンジリボンキャンペーン」を実施する事になりました。11月は児童虐待防止推進月間にもあたり、年末の気忙しくなるこの時期、心に目を向ける運動を展開できればと願わされております。

中心となる催し物は11月3日高知市内で開催されます(上記)。お近くにお越しの際は是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

オレンジリボンの発端は2004年栃木県小山市で3歳と4歳の兄弟が虐待の末、橋から川に投げ込まれて死亡した事件をきっかけに、翌年立ち上げられた運動です。県内でも、2008年に南国市で内縁の夫に室内で頭から投げつけられて、小5男児が虐待死しました。その翌年から高知県でも開催されるようになりました。このように傷ましい事件が二度と起らないようにこの取り組みです。これからも『オレンジリボン』をよろしくお願ひいたします。

オレンジリボンは児童虐待防止のシンボルです